



CQM(超短期経済予測モデル)

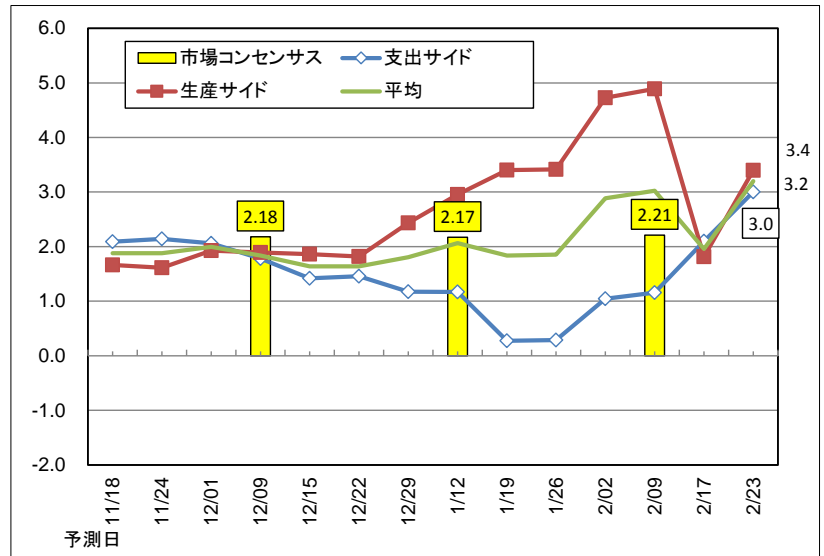
稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2015年2月23日)

## ポイント

- ▶先週更新されたデータは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。
- ▶12月の公共工事は前年比35カ月連続のプラスだが、2013年9月をピークとし減速トレンドが続いている。
- ▶1月の貿易赤字(季節調整値)は4カ月連続で前月から縮小している。
- ▶輸出額は前年比+17.0%増加し、5カ月連続のプラス。季節調整値では、前月比+1.8%と8カ月連続のプラス。輸出は持ち直してきており、純輸出は1-3月期の日本経済を押し上げよう。
- ▶今週(2/23)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+0.7%、同年率+3.0%と予測。先週の予測(+2.1%)から上方修正された。

## CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率 2015年1-3月期(%, 前期比年率換算)



### <輸出の持ち直し、1-3月期の日本経済を支える>

先週更新されたデータは、1月の貿易統計、12月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数、景気動向指数(改訂値)及び建設総合統計である。これらは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。

12月の公共工事は前年比+3.7%増加した。35カ月連続のプラスだが、2013年9月の同+26.7%をピークとし減速トレンドが続いている。季節調整値(APIR推計)は前月比-1.1%減少し2カ月連続のマイナス。結果、10-12月期の公共工事は3期連続の前期比プラスだが+0.6%増にとどまった(7-9月期+9.1%、4-6月期+1.7%)。

貿易統計(速報値)によると、1月の貿易収支は31カ月連続の赤字を記録したが、赤字幅は前年比-57.9%縮小した。季節調整値も47カ月連続の赤字となったが、前月比-34.6%減少した。4カ月連続で赤字幅は前月から縮小している。

貿易動向を金額ベースで見ると、1月の輸出は前年比+17.0%増加した。伸びは5カ月連続のプラス。一方、輸入は同-9.0%減少した。2カ月ぶりのマイナス。季節調整値では、輸出は前月比+1.8%と8カ月連続のプラス。輸入は同-1.4%と4カ月連続のマイナスとなった。数量ベースでみると、1月の輸出指数は2カ月連続の前年比プラス(+11.2%)。輸入指数は4カ月連続の同マイナス(-0.3%)となった。季節調整値ベースでは、輸出指数は前月比+8.9%と2カ月連続のプラス。輸入指数は同-2.1%と2カ月ぶりのマイナスとなった。輸出は持ち直してきており、純輸出は1-3月期の日本経済を押し上げよう。

12月の公共工事は事前予測を下回ったため、1-3月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された。一方、1月の輸出金額は事前予測を上回り、輸入金額は事前予測を下回った。結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から大幅上方修正された。

データ更新の結果、今週(2/23)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+0.7%、同年率+3.0%と予測。先週の予測(+2.1%)から上方修正された。1-3月期は内需(前期比+0.3%)と純輸出(同+0.4%)が前期からバランスよく拡大する。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690